

## 医療物品と医療機器の整理整頓に関する改善活動

能 勢 裕 子 塩 谷 ひかり

**要旨：**当病棟では、病棟編成により使用する物品が多様となり、物品の定数を見直す作業が必要となった。また、器材庫にある医療機器や処置道具の位置が決められていないため、出し入れするのに時間がかかり効率が悪くなっている状態である。そこで、効率よく業務ができることを目標とし、5S活動に取り組むこととした。物品の定数の見直しを行い、使用頻度の少ない物を減らしたりなくしたりした。また、物品の配置換えを実施し、表示形態を統一した。その結果、物品の種類や量を減らすことができ、場所が分かりやすく取り出しやすくなった。また器材庫は整理整頓され、使いやすくなった。

### 【はじめに】

当病棟は、平成30年度の病棟編成により、使用する物品が変化したため定数を見直す作業が必要となった。また、病棟にある医療機器、処置道具が取り出しにくいということも問題として上げられたため、医療物品と医療機器をスッキリしたいというテーマのもと、病棟内の5S活動に取り組んだ。

### 【方 法】

問題解決型QCストーリーに沿って活動を展開した。

### 【期 間】

平成30年5月～平成31年2月

### 【結 果】

アンケート調査の結果、SPD棚の物品が煩雑になっており（図1）、どこに何があるか把握しづらい、器材庫の物の位置が決まっていないため使用しづらいという意見が多かった（図2）。

(1) SPDの定数見直し、物品の配置変更しラベリングを実施した（図3）。(2) 器材庫の医療機器の定位置を決めた（図4）。(3) 5S

係を決めSPD棚と器材庫のチェックを週2回実施した（図5）。

その後、処置時の物品準備時間を測定したところ、物品準備時間が平均で①CV挿入：74秒②血培採取：49秒③術前処置（臍処置・除毛）：37秒短縮した（図6）。スタッフより「物品を捜したり、物をどかしたりしながら動くということが減って、時間が有効に使えるようになった」「物品が取り出しやすくなった」といった声も聞かれた。また、5S係が週2回チェックすることにより、マーキングやラベリングに合わせて物品の位置を直す姿が見られるようになった。

### 【考 察】

5S活動においては3M（ムリ・ムダ・ムラ）を無くす事は大切なことであるが、今回の取り組みで物品を捜す手間と時間の短縮に繋がり、業務をスムーズに行えるようになったと考える。また、5S係によるチェックを行うことで、スタッフの意識づけにも繋がったと考える。

### 【結 語】

今後、スタッフへの声かけなどを行い、5S活動の定着化を図り、病棟の医療機器や物品をより使いやすくしていくよう努めていきたい。



図 1



図 2



図 3



図 4

5S係チェックリスト			
		日付	年 月 日
		名前	( ) ( )
<SPD> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>正しいラベリングの位置に物品がある</li> <li><input type="checkbox"/>整理整頓されている</li> <li><input type="checkbox"/>既定の量の物品が揃っている</li> <li><input type="checkbox"/>不要な物が置かれていない</li> <li><input type="checkbox"/>物が崩れたり倒れたりするような置き方がされていない</li> <li><input type="checkbox"/>開封済の物品のSPDカードが外されている</li> </ul>	<新生児室> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>正しいラベリングの位置に物品がある</li> <li><input type="checkbox"/>整理整頓されている</li> <li><input type="checkbox"/>不要な物が置かれていない</li> <li><input type="checkbox"/>物が崩れたり倒れたりするような置き方がされていない</li> </ul>		
<気付いたこと>			
[ ]			

図 5

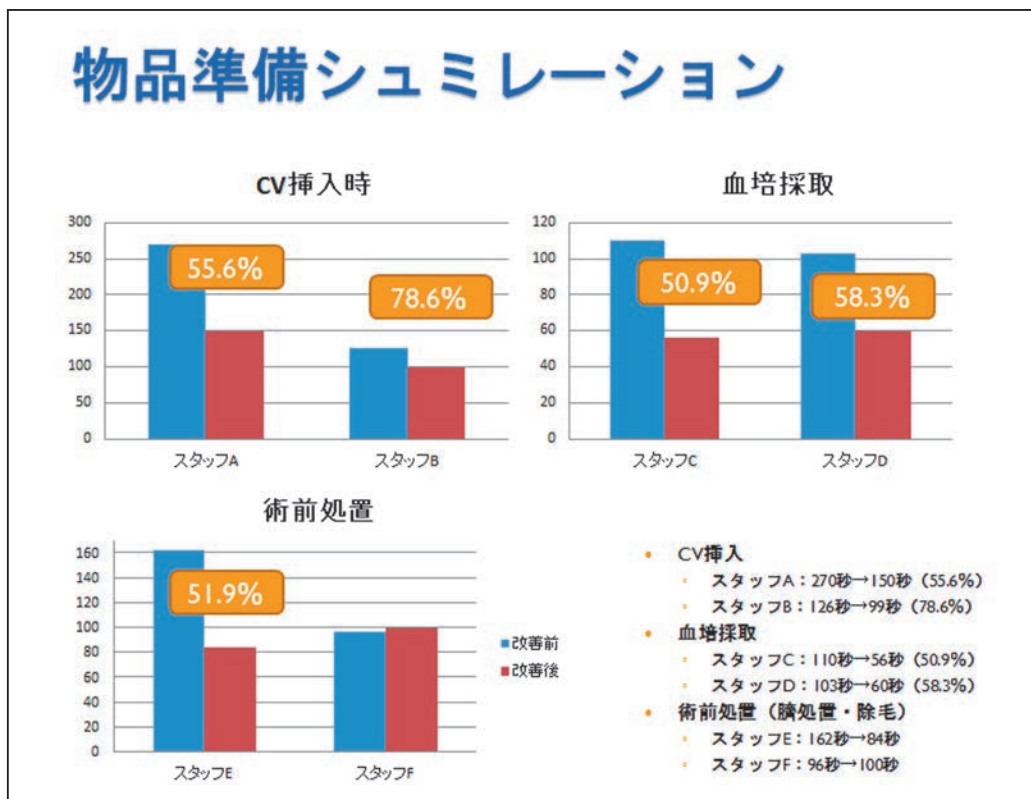


図 6













